

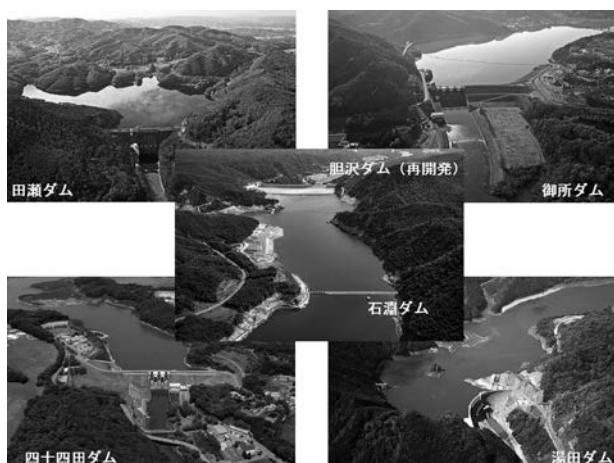
－東北地方整備局－

ダム群初“北上川上流総合開発ダム群”が選奨土木遺産に認定

1. はじめに

昭和16年に、物部長穂博士の提唱する河水統制思想に基づき、北上川上流に5つのダム（田瀬ダム・石淵ダム（胆沢ダムとして再開発）・湯田ダム・四十四田ダム・御所ダム）による洪水防止と北上川流域の高度開発を目的とした、我が国初の水系一貫による治水及び流域開発計画として「北上川上流改修計画」が策定された。なお、「北上川上流改修計画」が策定されてから令和3年で、80年の節目の年でもある。

令和3年度、「北上川上流総合開発ダム群」が、ダム群として初めて土木学会選奨土木遺産に認定されたので、紹介するものである。



認定された北上川上流ダム群

2. 北上川上流ダム群の歴史的な意義

「北上川上流改修計画」が策定されて間もなく、昭和22年のカスリン台風、翌年のアイオン台風の大洪水被害を契機として改修計画の見直しが行われ、同28年に全国に先駆けて流域開発を目的とした「北上川特定地域総合開発（Kitakami Valley Authority）」が「特定地域総合開発事業」の第1号として閣議決定された。この北上川の治水と流域開発計画は、我が国にとって大規模流域総合開発の先鞭となるもので、この事業の中心となったのが、北上川上流の5つのダムである。

5つのダムは、土木技術の面でも国内初となる多くの技術を採用している。

- ①田瀬ダム
完成年月 昭和29年10月（67年目）
土木的特徴 国内初の高圧スライドゲート採用、国内初のAEコンクリートの採用
- ②湯田ダム
完成年月 昭和39年11月（57年目）
土木的特徴 国内初の圧着方式オリフィスゲート・フリップバケットの採用
- ③四十四田ダム
完成年月 昭和43年10月（53年目）
土木的特徴 土木として初めてドラム型重液選別を採用し不良骨材を除去、複合ダム形式を採用
- ④御所ダム
完成年月 昭和56年10月（40年目）
土木的特徴 複合ダム形式を採用
- ⑤石淵ダム（平成25年11月、胆沢ダムに継承）
完成年月 昭和28年6月（68年目）
土木的特徴 国内初のロックフィルダム

3. おわりに

これまで、ダム建設、ダム管理に携わった方々、そして常日頃から、ダムへのご理解とご支援を賜っている地元市町の皆様に対して、紙面をお借りし、お礼申し上げますと共に、今後も、選奨土木遺産の認定が地域振興に活かせるよう、地域と一緒に努めて参りたい。



選奨土木遺産認定書授与式

国土交通省 東北地方整備局 北上川ダム統合管理事務所
副所長 齋藤 清見